

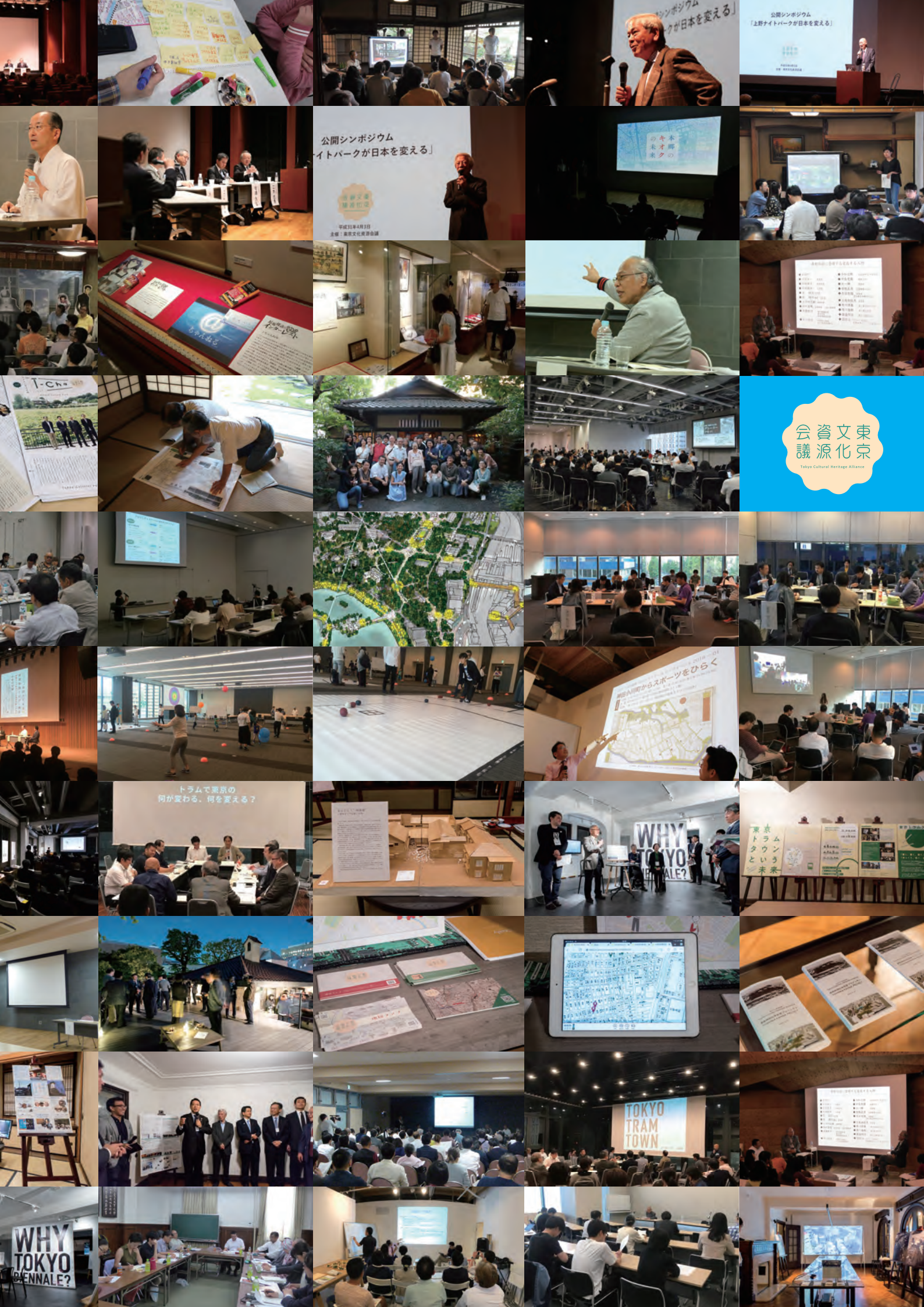


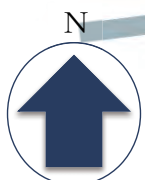
東京文化資源会議 2019 年度総会資料

2019年7月11日(木) 午後5時～6時

東京文化資源
会議

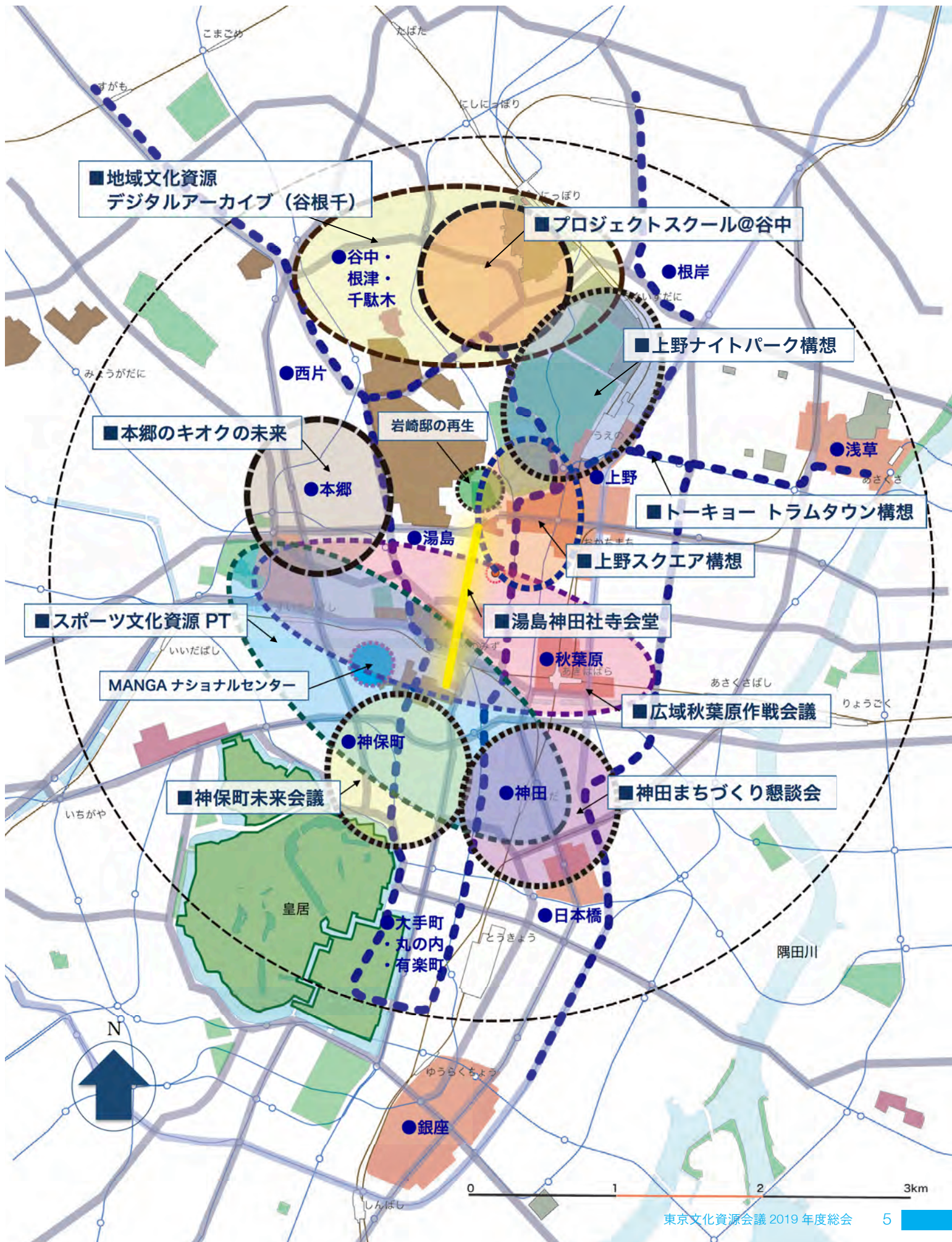
Tokyo Cultural Heritage Alliance





凡例

■ 大学等教育施設	■ 墓地・墓苑	■ 会館・宗教施設	■ 居住等新整備エリア	U バス等回遊動線	○ 半径3.0km圏
■ 公園・皇居等緑地	■ 谷中寺社集積地	■ 博物館・美術館等	■ 幹線道路	■ 低速の回遊動線	○ 半径3.0kmの中心
■ 上野動物園	■ 神社	■ 市街地整備地区等	■ 地区内道路		



2014年

- 第1回東京文化資源区構想策定調査委員会（6月6日）
- 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10月22日）

2015年

- 東京文化資源会議設立総会（2月23日）、会議発足（4月1日）
- 『東京文化資源区構想報告書』発行（5月）
- 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5月21日）
- 第1回役員会・賛助会員懇親会（6月18日）
- 2015年度第1回総会（6月29日）
- 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8月20・21日）：協力イベント
- 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9月28日）
- 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10月4日）：関連企画
- 会員向けエクサカーション「CTNを周ってみる」（10月17日・24日）
- 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11月9日）～no.5（2016年2月14日）
- 第1回東京ビエンナーレ企画委員会（11月25日）
- 第1回文化資源連携ビジョン策定委員会（12月3日）
- 「オズマガジン Meets 2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12月13日）

2016年

- 「三区文化資源地図協議会」発足（1月1日）
- 文化資源地図ファブPT第1回会合（1月21日）
- 公開シンポジウム no.2「2030東京ビジョン：3区長、大いに語る」（2月4日）：朝日新聞社共催
- 国際連携チーム（ILT）発足（3月9日）
- まちの作戦会議@谷中P成果発表会（3月13日）
- 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3月24日）
- 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3月25日）
- フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4月22日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5月25日）
- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6月1日）
- 湯島神田社寺会堂プロジェクト第1回検討会（6月8日）
- 『第2回公開シンポジウム報告書』発行（6月14日）
- 2016年度第1回総会（6月23日）
- 第1回神田まちづくり懇談会（6月27日）
- 第1回文化プログラム推進協議会（7月6日）
- フォーラム no.2「上野スクエア計画第1回フォーラム」（8月23日）
- トークョートラムタウン構想第1回勉強会（10月6日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10月7日）
- 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10月19日）
- フォーラム no.3「上野スクエア計画第2回フォーラム」（10月21日）
- 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12月5日）
- スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12月12日）

2017年

- 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3か国版で発行（4月1日）
- 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4月11日）
- 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3区文化資源地図ファブ PT）
- ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5月30日）
- 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- 第1回広報委員会（5月31日）
- 2017年度第1回総会（6月30日）
- 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）
- 特別賛助会員懇親会（7月7日）
- 第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けてー湯島神社社寺会堂検討会」（10月17日）
- 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社寺会堂プロジェクト」（11月14日）
- 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かすー地域文化資源デジタルアーカイブの役割ー」（11月24日）

2018年

- 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- 帝都物語第1回トークセッション（地図ファブ PT）（6月11日）
- 2018年度第1回総会（7月2日）
- 第1回社寺会堂塾開催（7月4日）
- 2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- 公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- 関連企画：東京ビエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ビエンナーレ』を考える」（9月29日）
- 公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- 第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- 帝都物語第2回トークセッション（地図ファブ PT）（10月18日）
- フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を实践する」（10月31日）
- 東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- 公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神ー重層化する都市の文化資源を愉ませるー」（12月14日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.1「ライブエンターテイメント特区を考える」（12月15日）

2019年

- フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性ー『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみー」（1月19日）
- 公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想ースローモビリティが変える東京の都市生活ー」（2月18日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- 第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- 公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- 第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- 広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- 第1回総合戦略チーム会議（5月9日）

- 新事務所開き（6月12日）
- トークショー「駿河台・湯島台・本郷台 パブリックスペースを考える」（社寺会堂研究会）（6月21日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）

< 出版物 >

書籍

- 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016年
- 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016年

報告書

- 『東京文化資源区構想』 2015年
- 『2030 東京ビジョン 3区長、大いに語る』 2016年
- 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』 2017年
- 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018年
- 『上野ナイトパーク構想報告』 2019年

パンフレット

- 「東京文化資源会議：2030Tokyo を変える！」 2016年～（随時改訂）
- 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016年
- 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中3か国版）」 2017年
- 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017年
- 「江戸・東京 知の交差点 グレーターアキバ（日英中3か国版）」 2018年
- 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市（日英中3か国版）」 2018年
- 「近代スポーツ発祥の地をたどる（日英中3か国版）」 2018年
- 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウタウン（日英中3か国版）」 2018年
- 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ」 2018年

定期刊行物

- 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017年9月～）



地図ファブは、地図そのものを文化資源として捉えて活動をおこなうプロジェクトチームであり、地域の公的な活動を支援したり公的に発行された地図を対象としたりすることから対象3区（千代田区・文京区・台東区）と協定を結び三区文化資源地図協議会として活動している。2017年度にはアーカイブ事業と地図カタログ事業を進めた。

(1) 地図アーカイブ事業

地図アーカイブ事業では、主として地図アーカイブのインターフェイスの改良を進めた。基本的には昨年度までと同様に、Strolyへ地図をアーカイブしているが、StrolyがStroly-αからStroly-βにバージョンアップしたことで、地図へのアクセスがよりわかりやすくなった。<https://stroly.com/boards/850/>

また、本事業で検討したメタデータを最大限に活かすために、引き続き Omeka-S での提供も続けているが、よりユーザインタフェイスがわかりやすいデータベースサービス Airtable との併用も開始した。

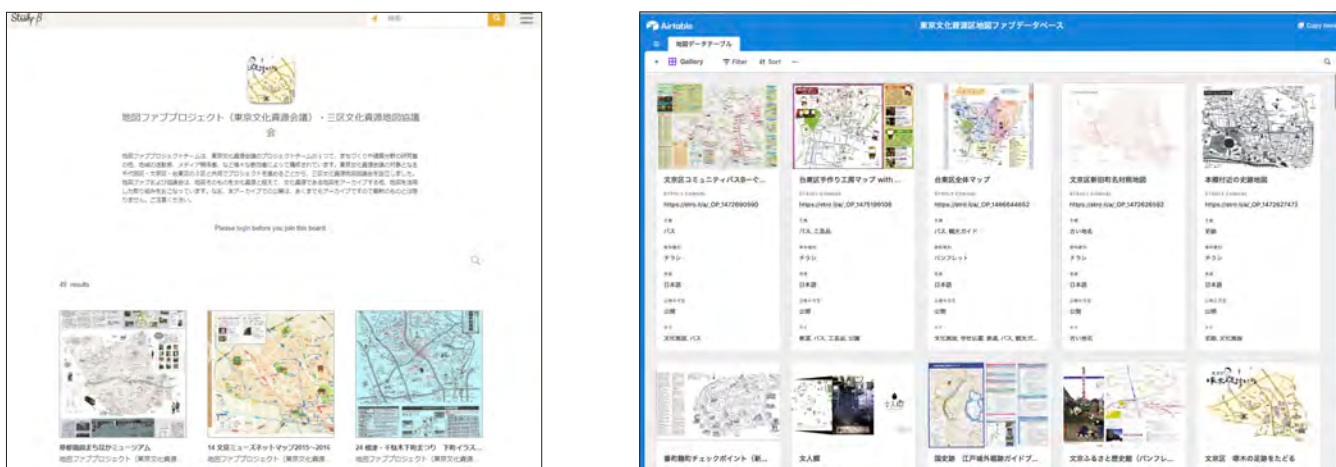


図 アーカイブシステム（左：Stroly-β版、右 Airtable 版）

(2) 地図カタログ事業

帝都物語地図カタログ

帝都物語地図カタログの発行を進めるため、2回のトークセッションと1回のシンポジウムを開催し、その内容を受けて「帝都物語地図カタログ」を発行した。トークセッションおよびシンポジウムでは、まず帝都物語の舞台となった江戸・明治から昭和にいたる江戸・東京に関する地図や図面を紹介し、その内容を受けて話を進める形を取った。

・第1回トークセッション「帝都物語からみる江戸・東京の風水」

日時： 2018年6月11日（月）18時30分～
登壇者： 荒俣宏・清水祥彦（神田明神権宮司）
会場： 神田明神祭務所地下ホール
来場者： 約100人

・第2回トークセッション「帝都物語からみる文化資源区のまち」

日時： 2018年10月18日（木）18時30分～（開場18時）
登壇者： 荒俣宏・藤森照信（建築家・建築史家）
会場： 東京大学本郷キャンパス ダイワハウス石橋信夫記念ホール
来場者： 約80人

・シンポジウム「地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神 - 重層化する都市の文化資源を愉しませる -」（東京文化資源会議第9回公開シンポジウム、神田明神ホール披露シンポジウムを兼ねる）

日時： 2018年12月14日（金） 18:30～

場所： 神田明神ホール（神田明神内：千代田区外神田2丁目16-2）

特別協力： 神田明神 協力：(株) KADOKAWA

来場者：約300人

<プログラム>

1. 趣旨説明 真鍋陸太郎（東京文化資源会議 / 東京大学）
2. 挨拶 清水祥彦（神田明神 権宮司）
3. 地図から見る帝都物語 片桐由希子（東京文化資源会議 / 首都大学東京）
4. パネルディスカッション

パネリスト： 荒俣宏（作家）、角川歴彦（株 KADOKAWA 会長）

清水祥彦（神田明神 権宮司）、牧野友衛（トリップアドバイザー(株)代表取締役）

司会： 吉見俊哉（東京大学教授 / 東京文化資源会議幹事長）

トークセッション・シンポジウムの様子（左から第1回、第2回、シンポジウム）



・帝都物語地図カタログの発行

A5 版横開き約 100 ページとなる「帝都物語地図カタログ」を 5000 部、発行し、関係者の他、区図書館・施設へ配布した。

(3) POI コンテンツの充実と UP Tokyo ぶらり

地図ファブでは、地図をアーカイブすることと地図を活用することを中心に活動をしてきたため、地物に関する情報（POI：Point of Interest）については収集を特に行ってこなかった。しかしアーカイブしている地図をより有用に使用するために、POI を収集・アーカイブし、地図上に POI を掲載することができる web サービス「UP Tokyo ぶらり」を提供することとした。

2019 年度の活動予定

- ①「UP Tokyo ぶらり帝都物語地図編」の作成・公開と関連まちあるきイベントの開催
- ②「文化資源ガイドブック」（6 種類・3ヶ国語）掲載コンテンツの POI アーカイブと「UP Tokyo ぶらり」での提供
- ③地図アーカイブ事業を継続する恒常的な体制づくりの検討

○東京文化資源会議第6回フォーラムの実施

プロジェクトスクール@谷中（PS@谷中）では、東京文化資源会議第6回フォーラムとして、2019年2月19日（14:00-17:00）に、明治大学駿河台校舎7Fアガミコモン2階にて、2015年から2017年の活動をふまえ、地域の文化資源活性化によるまちづくりを担う人を育てるための仕組みを議論することを目的としたシンポジウムを開催した。プログラムは以下の通りである。

・報告

谷中 PS の運営チームからのプロジェクトスクールの構想と谷中での3年間の活動の成果と課題

・講演

清水義次氏（株アフタヌーンソサエティ代表）、佐々木龍郎氏（株佐々木設計事務所代表）、田村誠邦氏（明治大学特任教授 株アークブレイン代表）、後藤治氏（工学院大学理事長）による文化資源としての不動産のプロデュース、リノベーションからのまちづくりへの展開、制度の活用の考え方など、まちなかでの活動に関する講演

・パネルディスカッション

会場からの質問を受けながら「まちづくり」の現場での「場・人・コト」の結びつけ方、その中での人材育成について議論した。



フォーラムの様子

○活動のまとめと次のプロジェクトへの展開

3年間の活動とフォーラムを受け、活動のまとめを次のプロジェクトへの展開を検討した。これらは、これまでの活動、フォーラムの成果と合わせて2019年度中に報告書としてまとめる予定である。

PS@谷中では、地域の主導により展開される演習・実践型のスクールであることで、提案の過程で得られる情報も含めて、地域の生活文化が一定の客観性を持って記録される機会となった。また、地域に関連した項目での講義の組み立ては、地域の可能性・課題の全体像を改めて示すものとなったといえる。一方で、スクールとしては、CPDなど明確な位置付けがないものであることから、特に有料とした場合に多様な背景や意識を持つ参加者からの期待とのすり合わせ、そのための世話役の負担が高いことが課題となった。また、プロジェクトスクールの本来の活動への相乗的な効果を得られることが必要である。谷中であれば、町の現場の活動や問題意識と調査・研究活動とのつながりをつくるプラットフォームの構築など、関係する主体と相互補完的に展開することができるフレームを検討していくことが、今後の方向性として考えられる。

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクトは、地域のコミュニティ資料、自治体関連資料、刊行物などをデジタル形式でアーカイブ化し共有することを目的としている。地域の情報を蓄積するデジタルアーカイブを社会情報基盤として発展させることで、地域の新たな公共性の創造につなげる。

○ DA Lab の企画

2018年1月より DA-Lab (Digital Archive Laboratory) 計画を開始した。DA-Lab 計画では、デジタルアーカイブを構築するための拠点を地域に配置する。この拠点である DA-Lab は、多様な活動主体が地域の情報をアーカイブするために利用できるものとして構想している。DA-Lab を通じて構築されるデジタルアーカイブは、地域のさまざまな活動に利用でき、コミュニケーションを活性化する。2018年度中は、プロジェクトの基本構想の策定、企画立案、そして小規模実験を行なった。

○ デジタル・コレクション・イベントの計画と提案

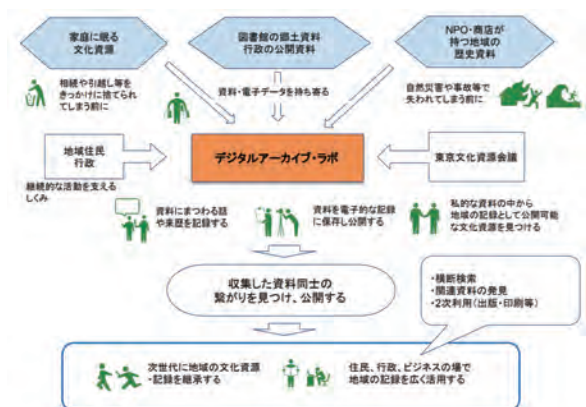
地域の住民に対して、DA-Lab に参加し DA-Lab を活用するきっかけを作るため「デジタル・コレクション・イベント」を企画した。デジタル・コレクション・イベントとは、地域の住民がテーマに沿った歴史的な資料を持ち寄ってデジタル化し、オンラインに公開するイベントである。類似例として、ヨーロッパの文化遺産に関する電子図書館「Europeana」が、地域へのアウトリーチ活動の一環として各地で開催しているデジタル・コレクション・デーがある。これまでの活動事例として、「第一次世界大戦」や「移民」をテーマにしたものがある。

今回、東京文化資源地区でデジタル・コレクション・イベントを開催するにあたり、テーマを「学校」として提案を行った。少子高齢化や再開発に伴い、多くの歴史ある小・中学校で統廃合が進んでいる。住民にとって小・中学校は思い出深い場所であり、地域の物語の舞台でもある。これらの記録を掘り起こし、地域コミュニティの記憶を後世に残すことは、地域の新たな公共性の創造に資するものである。

本イベントでは、資料をデジタル化するだけでなく、所有者に対するインタビューを行い、資料に関する周辺情報も記録する。不明な情報があれば、運営スタッフが資料に関する調査を手助けしたり、オンラインで公開して閲覧者に補足情報を求めたりする。参加者が地域資料の収集、デジタル化、公開、活用までの一連の作業を行うことで、デジタルアーカイブ構築のノウハウを身につけ、コミュニティの中で主体的に地域文化資源を発掘、活用できるようにすることを目的とする。

本イベントの運営を通じて、地域コミュニティでデジタルアーカイブを構築する際の課題を洗い出し、他の地域で同様のイベントを展開する際の知見をまとめる。また企画連携先を探り、他の地域でも DA-Lab を運営できる人材を育成する。

本イベントの終了後は、具体的な機材等を備えた拠点 DA-Lab を東京文化資源区内に設置し実証的な実験を行なう。期間限定で一般開放し、レクチャーやセミナーを行なうことで、デジタルアーカイブ構築のノウハウを共有するとともに、利用者側の要望を明らかにする。また、地域の事業者と連携をとり、ビジネス活用の方法も探る。



○活動概要

湯島神田上野地域に集まる学術・宗教施設の多様さに注目し、歴史や都市生活から見る宗教性の今日的な役割について、精神文化の形成に大きな役割を果たしてきた湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂、東京復活大聖堂教会（ニコライ堂）の関係者と、社会学や思想史、歴史学、建築学等の研究者が多角的に検討しています。2018年度は、パブリックスペースに関する研究や模型の制作を通して、学術・宗教施設のもつ空間的役割や地形・都市景観の特徴を捉える試みをおこなうと共に、社寺会堂塾を開設運営する等、前年度の活動を実践に移しました。1月には寛永寺とアッサラーム・ファンデーシヨンの関係者を新たなメンバーとして迎え、来年度は六つの学術・宗教施設を結ぶ散策ルートの考案や六施設合同イベントの開催等、より実践的・広域的な連携を図ります。



○活動記録

・研究会

開催日	場所	概要
2018年5月9日	ニコライ堂	社寺会堂塾の開講準備 レクチャー2「公共性とまちづくりを考える」
2018年6月29日	湯島天満宮	湯島・駿河台の地形模型・画像制作の進捗報告 レクチャー3「本郷龍岡町のまち・建築・文化」
2018年10月15日	東京大学	第2期のレビューと第3期の目標確認
2018年11月7日	旧山口萬吉邸	東京文化資源会議交流会 東京理科大学宇野研究室による地形模型・画像の公開
2019年1月16日	湯島聖堂	第3期の取組み方針の検討 寛永寺とアッサラーム・ファンデーシヨンの関係者の参加 プロジェクトチーム名の変更 →湯島神田社寺会堂検討会から湯島神田上野社寺会堂研究会へ
2019年3月7日	神田明神	施設連携イベント企画の検討

・プロジェクト

- ・東京理科大学宇野研究室による駿河台・湯島の地形模型・画像の制作
- ・東京理科大学宇野研究室と(株)日建設計によるパブリックスペースのあり方に関する研究

「Public Space 本郷台・湯島台・駿河台のパブリックスペース」
(2018年12月発行)



・社寺会堂塾

- ・テーマ設定 宗教の普遍性・地域性の捉え直し
宗教と新しい祝祭・演劇空間の創造
- ・参加者 湯島神田上野社寺会堂研究会メンバー
研究者・大学院生・ジャーナリスト他
- ・成果目標 報告会の開催・出版物の発行



・活動記録

- 2018年7月4日 湯島聖堂 小島毅（東京大学） 「元号について 江戸儒学と一世一元制」
 (中外日報 2018年7月6日掲載)
- 2018年10月23日 神田明神 湯伊藤聡（茨城大学） 「神仏習合と神観念の変容 古代・中世を中心に」
- 2018年11月7日 ニコライ堂 畔柳千明（東京大学） 「明治初期の正教会における祈りと漢訳教典」



ニコライ堂



湯島聖堂



神田明神



アッサラム ファンデーション



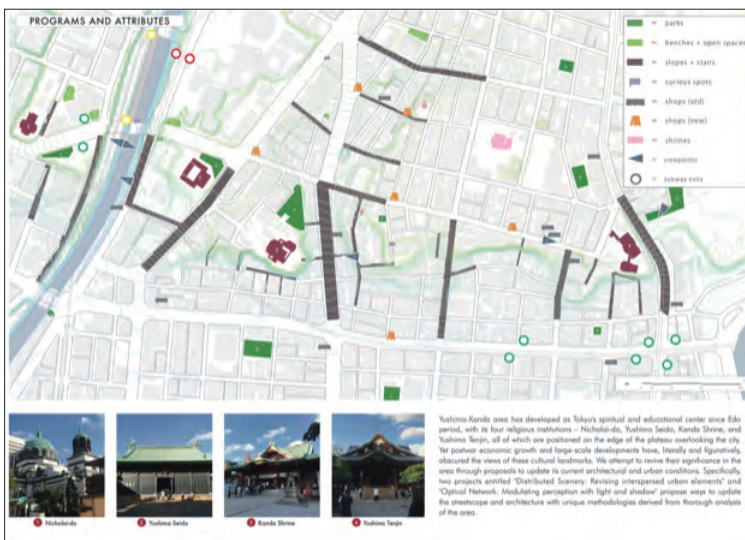
寛永寺



湯島天満宮

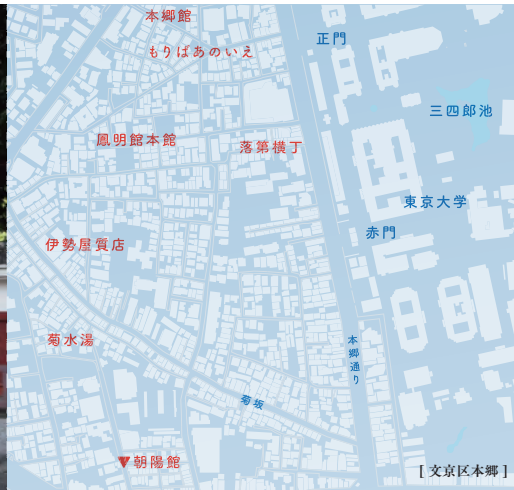
湯島神田上野社寺会堂研究会メンバー

宇野求(東京理科大学教授・座長～2018年10月) 押見匡純(湯島天満宮権宮司) 金井康子(東京文化資源会議)
 国広ジョージ(国士舘大学教授) 高佳音(東京理科大学助教) 齋藤希史(東京大学教授) 清水祥彦(神田明神権宮司)
 対中秀行(東京復活大聖堂教会(ニコライ堂)主任司祭) 平正路(斯文会事務局長(湯島聖堂))
 張競(明治大学教授) 鳥居繁(神田明神権禰宜) 中島隆博(東京大学教授・社寺会堂塾塾長) モハメッド ナズィール(アッサラムファンデーション代表理事) サーラ さをり ナズィール(アッサラムファンデーション)
 広田直行(日本大学教授) 藤井恵介(東京大学名誉教授) 宮部亮侑(寛永寺執事) 柳与志夫(東京文化資源会議事務局長) 山崎繭加(華道家) 吉見俊哉(東京大学教授・座長 2018年10月～)



かつて本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして銭湯、さらには学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の「文化」が培われてきていました。しかし、現在の本郷の街を見ると、そうした文化資源と呼べるものはほとんど姿を消しています。

私たちは、東京文化資源会議の協力のもと、文京建築会ユース・株式会社松下産業・東京大学(知能機械情報学専攻/都市工学専攻)・跡見学園女子大学・文京区・地域住民など、本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、本郷の魅力発信につながる文化資源の保全・活用を目指して活動をしています。



【菊水湯：2015年9月営業終了】

の本郷の
キオクの
未来



【鳳明館本館】

記録活動 銭湯編



●菊水湯 [2015.09 営業終了]

3D スキャン、ドローン撮影、全天球撮影、利用者コメント収集、測量などを実施



▶冊子「菊水湯にありがとう」
(2017.09 発行)に成果がまとまる

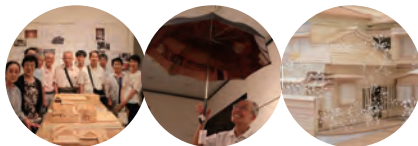


記録活動 旅館編



●朝陽館 [2016.03 営業終了]

3Dスキャン、全天球撮影、測量、撮影、模型作成など



●鳳明館本館・森川別館・台町別館

「歓迎！本郷旅館街」展（企画・文京建築会ユース）と連動した形でのインタビュー、撮影、屋内ピーコンを使用した音声ガイドの開発など

記録活動 その他



老舗店舗、学生寮・下宿屋
古書店・出版業など

▶月1回の会議で議論を深めています。



イベント① キックオフWS

「本郷のキオクの未来を考える昼／語る夜」

2016.07.11@もりばあのいえ

「本郷キオク散歩」同時開催「朝陽館展示」

2016.12.17@伊勢屋質店+もりばあのいえ



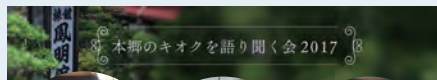
語り聞かす会シリーズ

「本郷のキオクを語り聞かす会 2017」

2017.09.23@鳳明館本館大広間

「本郷のキオクを語り聞かす会 2018」

2018.10.06@本郷瀬川邸



出版物



「菊水湯にありがとう」

2017.09 発行
さようなら菊水湯プロジェクト有志・編
本郷のキオクの未来・発行



「本郷のキオクの未来 2017-2018」

2019.06 発行予定
本郷のキオクの未来・編

本郷のキオクを語り聞く会二〇一七

（於・鳳明館本館）



本郷のキオクの未来プロジェクトでは、二〇一七年九月二十三日（土）に「本郷のキオクを語り聞く会二〇一七」を開催しました。

今回は本郷の数々の老舗のご店主様など本郷の文化資源をずっと守って来られた方々をお呼びして、昔と今の本郷の話を伺うというのが趣旨の会となりました。

今回会場となったのは、登録有形文化財でもある鳳明館本館の太広間。中に入れる貴重な機会であり、建物の内部見学会も同時に催しました。参加者でお湯に浸かる幸せな心と時も。

お話を伺ったのは、教授も学生時代からよく通っていたという喫茶店ボンナのおかみさん、会場ともなった旅館鳳明館の社長、中華料理屋大島やのご店主、そしてまわり住民の会の代表の四名のみなさま。本郷というまちへの理解を深め、「本郷のキオク」が一体どんなものなのか考えるきっかけになればと思っています。

本郷のキオクを語り聞く会二〇一八

（於・本郷 瀬川邸）



本郷のキオクの未来プロジェクトでは、二〇一八年十月六日（土）に「本郷のキオクを語り聞く会二〇一八」を開催しました。

文京区・本郷の様々な歴史の建築や店舗が失われゆく昨今、本郷の老舗のご店主など、本郷の「キオク」をずっと守って来られた方々にお話を伺い、本郷らしさとはなんなのか考える場とするべく、昨年度に引き続き実施しています。

今回会場としてお借りできたのは、登録有形文化財でもある本郷瀬川邸。明治二十年に古市公威邸として建てられた由緒ある本郷の名建築です。中に入れる貴重な機会ということで、参加者の皆さんにはそれぞれ建物の内部見学もお楽しみいただけようです。

今回のゲストスピーカーは和菓子「寝久月」栗田洋さんと、きそば「栄亀庵」の笠井英子さん。近隣の老舗を営むお二方にお越しいただき、お店の歴史から、地域のお話まで様々なことを伺いました。

プロジェクトのビジョン

Playfulness for All

既成の枠組みを超えて、新しい“遊び”の場を文化資源区に生み出す。

プロジェクトの目標

**2020年に
東京カルチャー&スポーツ・バザールの開催**

大運動会を地域と協働して企画・運営することにより、日常的な“遊び”の空間を地域に埋め込む。

プロジェクトチームミーティング

10回開催

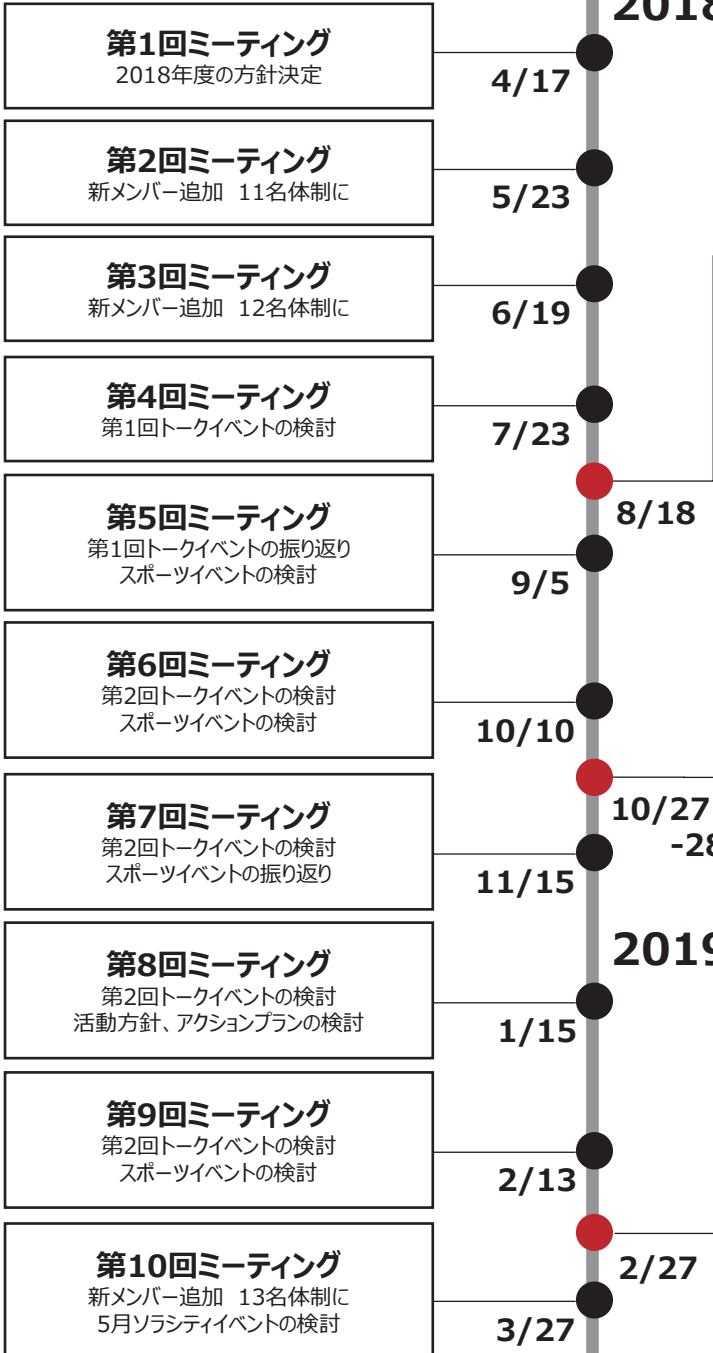
トークイベント

2回 約**50**人

スポーツイベント

1回 約**200**人

2018



トークイベント「神田小川町からスポーツを開く」



神田錦町KANDADA3331

神田スポーツ祭り「神（カン）ガエルスポーツ！」



アイマスクをしてボールを蹴る鈴木座長

小川広場

トークイベント「文化資源としてのスポーツ：
スポーツが都市に遊び場をつくる」



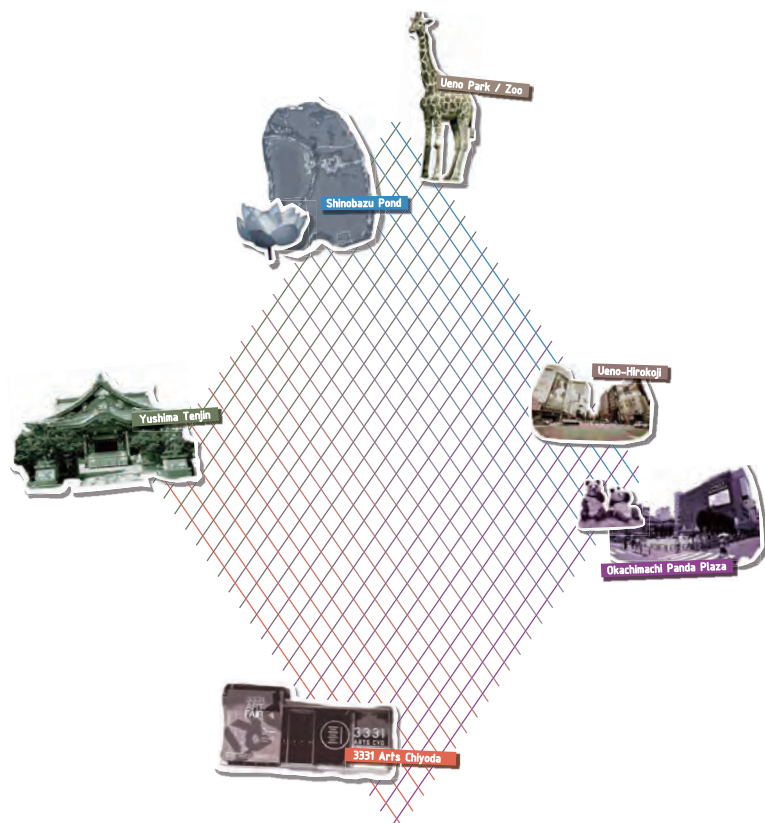
淡路町ワテラスサロン

プロジェクトのビジョンである「Playfulness for All」に基づき、日本におけるスポーツの起源をだるトークイベントを8月に開催。また、神田スポーツ祭りにおいて、年齢、性別、障がいの有無や過去のスポーツ経験等にかかわらず楽しむことができるスポーツを考案するイベントを開催。2月にはスポーツが本来持っている「遊び」の要素を改めて見つめなおすトークイベントを開催。※各イベントの詳細は東京文化資源会議ウェブサイト参照

主な成果

- ・文化資源区内に眠る歴史等の**スポーツ文化資源を再発見**
- ・誰もが参加できる開かれた**スポーツ（遊び）の価値の追求**

文化資源区における Playfulness for ALLの具現化へ



Ueno Square

上野スクエア構想 ————— 2018年度活動報告

第二次上野スクエア構想検討委員会メンバー

(五十音順・敬称略)

石樽 督和 (東京理科大学)
 梅澤 真光 (御徒町駅東側区域まちづくり協議会)
 押見 守康 (湯島天満宮)
 小野 道生 (都市計画設計研究所)：プロジェクトマネージャー
 北岡 タマ子 (お茶の水女子大学)
 澤登 紀乃 (Fun the Muse)
 島 裕 (政策投資銀行)
 関口 太一 (都市計画設計研究所)
 玉置 泰紀 (KADOKAWA)

道明 葵一郎 ((株) 道明)
 中島 直人 (東京大学)：上野スクエア構想検討委員会座長
 長岡 信裕 ((株) 太昌園)
 永野 真義 (東京大学)：プロジェクトマネージャー
 野原 肇 (野原産業 (株))
 藤村 龍至 (東京藝術大学)
 (作業協力)
 東京大学都市デザイン研究室 + 地域デザイン研究室

2018年度活動カレンダー

(主要なものを抜粋)

2018/5/4 上野スクエアまちあるき
 2018/5/16 第六回第二次上野スクエア構想検討委員会
 2018/7/1 第二次上野スクエア構想報告書
 『開かれた上野スクエアを描く』発行
 2018/9/30 かわいマップ『上野スクエアを歩く』発行
 2018/10/1 シンポジウム『上野スクエアを構想する』
 (東京大学福武ホールラーニングシアターにて)
 2018/10/31 オープンフォーラム
 (アーツ千代田 3331 コミュニティスペースにて)
 2018/11/7 東京文化資源会議交流会ブース展示
 2018/12/20 地域誌『湯島かわい』取材対応
 2019/3/4 池之端仲町空きスペース活用に向けたプレ MTG

2018年度から2019年度へ

(構想から実践へ)

- ① 2017年度から東大都市デザイン研究室の調査・提案を元に進めてきた第二次構想を、2018年度半ばをもって報告書に取りまとめた。
- ② 2018年度はその成果を踏まえ、かわいのマップ制作、シンポジウムやオープンフォーラムの開催、山口邸での展示のほか、地域誌『湯島かわい』などを通じた情報発信を行った。
- ③ 2019年度は、『構想から実践へ』をテーマに取り組む。
- ④ 地元の盛り上がりがあった池之端仲町周辺で『空きスペース活用 MTG』と題し、近年増加している空きテナントを活用するまちづくりの実践を、地元不動産オーナー達と共に模索している。



上野スクエア界隈の まち歩きイベントを開催

- ・2018/5/4 地域に詳しい方とまち歩き
御徒町→広小路→アーツ千代田→
吹貫横丁→箭弓稲荷→不忍池→シンスケ

Walk



2017年度からの 第二次委員会議論まとめ

- ・第六回上野スクエア構想検討委員会
・1年余りに渡る議論の総括を行うと共に、
委員の方のコメントも取り入れた報告書の
作成へ。

discussion



『上野スクエアを歩く』 かわい紹介マップの作成

- ・まち歩きイベントで得られた視点も加え、
界隈の魅力を紹介するマップを製作。
・昼マップと夜マップを併置したデザイン。

map



第二次上野スクエア構想 報告書の発行

- ・『開かれた上野スクエアを描く』と題して
報告書を発行。
・地域の形成やアクティビティの分析のほか
構想の試案集などを盛り込む。

Vision Book



150名満員御礼の 上野スクエアシンポジウム

- ・2018.10.1 東大福武ホールにて開催
・伊藤滋/今谷秀和/押見守康/隈研吾/
中島直人/中村政人/吉見俊哉の各氏が
登壇

symposium



オープンフォーラム： 40名全員参加型の討論会

- ・アーツ千代田 3331にて開催
・地元老舗の店主から地域を舞台に活動す
る学生まで広く参加し、上野スクエアで
今後何が実践可能かを中心に議論。

Open forum

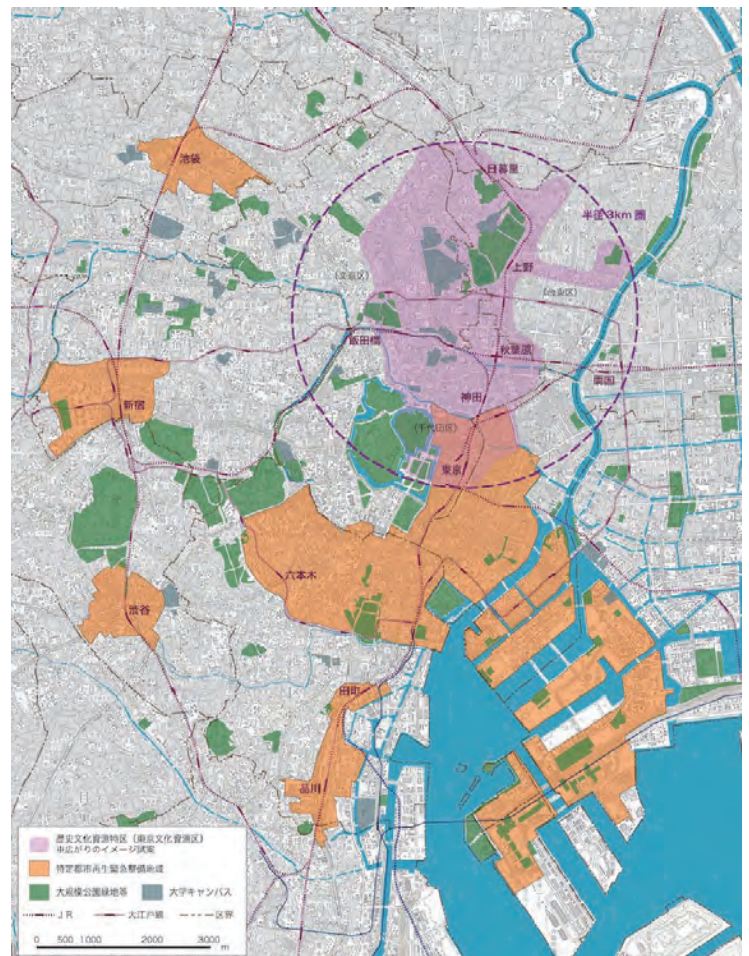
「リノベーションまちづくり制度研究会」は、まちづくファンド、歴史的資源保存と容積率移転の手法を併用した新しい都市計画建築制度について検討することを目的に、2017年度に発足した。2年間を活動の目途として、地元金融機関と連携したまちづくりファンド活用による具体的PJの実現を短期目標に掲げ、現在、報告書を作成している。2018年度は、新しい都市計画建築制度の提案を盛り込んだ「首都・東京の歴史文化ゾーン「歴史文化資源区」の保全・活用に向けた要望書」を国土交通大臣に提出した他、東京都及び台東区にも要望書を提出し、そのための議論に時間を費やした。新年度は再度目標設定をし、第2期リノベーションまちづくり制度研究会を立ち上げる。

○経過

- 2018年4月24日(火) 第5回研究会
 - ・ケーススタディ地区(谷中根津、神保町)の概要説明
 - ・谷根千まちづくりファンド設立について(報告)
- 2018年7月26日(木) 第6回研究会
 - ・谷中のケーススタディについて/今後の進め方について
- 2018年9月13日(木) 第7回研究会
 - ・要望書について/今後の進め方について
- 2018年10月23日(火) 第8回研究会
 - ・要望書について/ケーススタディについて
- 2018年12月6日(木) 第9回研究会
 - ・要望書について/今後の進め方について

○研究会構成

- <座長>
 - ・田村誠邦(明治大学特任教授)
- <副座長>
 - ・小泉秀樹(東京大学教授)
- <顧問>
 - ・後藤治(工学院大学理事長)
- <プロジェクトマネージャー>
 - ・椎原晶子(たいとう歴史都市研究会理事長)
 - ・山本玲子(全国町並み保存連盟事務局長)
- <東京文化資源会議関係者>
 - ・島裕(日本経済研究所技術事業化支援センター長)
 - ・小野道生(都市計画設計研究所室長) ほか
- <企業メンバー>
 - ・東京文化資源会議賛助会員である不動産関連企業
 - ・外部の建築設計事務所、コンサルティング企業など
- <オブザーバー>
 - ・国土交通省、MINTO機構など
- <事務局>
 - ・中村直美(株)アークブレイン



(参考) 東京における歴史文化ゾーン(歴史文化資源特区)の位置(イメージ)



「ナショナル・ハウス」（または「ホスピタリティ・ハウス」）とは、各国政府および各国オリンピック委員会（NOC）が五輪大会の開催都市において市内の文化センターやスポーツクラブ、または歴史的建造物等を借り上げて、自国の文化体験の機会を市民や観光客に提供するというものです。2020年には東京都心部において、多数のナショナル・ハウスが整備されると予想されています。

東京文化資源会議では、このナショナル・ハウスに関して、一過性のイベント会場として整備するのではなく、大会閉幕後も各国の文化・観光の情報発信拠点等として持続可能な仕組みを各国のNOCや文化機関とご一緒に検討していきたいと考え、「ナショナル・ハウス・プロジェクト」を発足させました。そして、東京文化資源会議のホームページにおいて、文化資源・知識資源を活用してレガシーとクリエイティビティ両面を提示できるナショナル・ハウスにとって極めて重要な場所として文化資源区内各エリアの立地特性をアピールした結果、2018年度において複数の国から打診がありました。

ただし、それなら各国の引き合いは、いずれも大規模な面積を必要とするものでしたので、文化資源区において想定していた物件（リノベーション、土地等）とは残念ながらマッチングが成立しませんでした。

一方で2018年度には、東京文化資源区内の施設や建造物等を、いわゆる「ユニーク・ベニュー」（歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと）として活用したいという打診が複数のルートからありました。

こうした状況を勘案して、2019年度からの「ナショナル・ハウス・プロジェクト」においては、従前の「ナショナル・ハウス」の提案・誘致に加えて、文化資源区内における「ユニーク・ベニュー」や新しいかたちの都市文化観光を推進することも検討課題として包含して活動することといたします。

Tokyo Tram Townプロジェクト 2018年度 活動報告

企画・運営メンバー： 中島伸（東京都市大学）[座長] 平賀直武（デンソー）
今井瑛里子（NEC） 藤山龍太郎（国立国会図書館）
島裕（日本経済研究所） 柳与志夫（東京文化資源会議事務局長）
夏秋馬寧（博報堂） 吉見俊哉（東京大学）
田中元子（株ランドレベル） 三浦誌乃（横浜国立大学）
谷口晋平（博報堂） 鷺尾和彦（博報堂）
玉置泰紀（KADOKAWA） 渡部裕樹（日建設計総合研究所）
橋本健史（403architecture） <2019年4月時点>

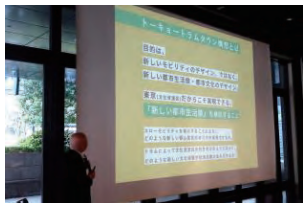
■ 2018年度の活動の振り返り

● ラウンドテーブル（公開討議）の実施

「スローモビリティが変える東京の都市生活」をテーマに、産官民学、専門領域も異なる9名のご登壇者の方々による公開ラウンドテーブルを開催いたしました。

「都市政策・制度といったトップダウンの観点」と「文化資源区という

ローカルからのボトムアップの観点」が、ひとつのテーブルの中で融合していくというTTTプロジェクトの醍醐味が実感される内容となりました。会場も満員御礼となり、TTTが投げかけるテーマに対する注目の高さが伺われました。



● フィールドワーク等の実施

文化資源区内のTTTの想定ルートとなるエリアのフィールドワークを実施しました。2019年度はこの活動をさらに発展させ、課題を掘り下げていくためのリサーチを実施予定です。



● TTFへの提案

TokyoTokyoFestivalでのTTTの実証実験を兼ねたイベントの企画提案を行いました。実現には至りませんでした。今後、実証実験を進めていく上でのベースプランとなっています。



■ 2019年度の活動について

文化資源区内での実証実験の実施を目標に、活動を進めてまいります。本年度は、TTT構想への賛同者を集め、活動をさらに大きく育てていくためのアクションとして、これまでの構想やリサーチを取りまとめ、

対外的に発表することも検討しています。また、東京文化資源会議の他プロジェクトとの連携・コラボレーションも推進していく予定です。

トップダウン型アクション

日本全体の普遍的な課題（後期高齢化社会など）、政策的アジェンダからのアプローチ

- ・スローでジェントルな、新しい交通システムの在り方の検証
例：回遊性ある移動の実現による都市生活の活性化の立証
モビリティと都市空間のインタラクションデザイン検証
- ・TTT実現に向けた制度活用方法の検討
例：日本版BIDなどの、新しいエリアマネジメント手法の応用の検証
- ・国内外のケーススタディ/リサーチ/ネットワークキング
例：新モビリティの導入が社会課題解決のイノベーションとなる事例の収集（バルセロナ、メデジン、ライブツイヒ…etc.）

ボトムアップ型アクション

文化資源区という個性ある街の持つ固有性からのアプローチ

- ・文化資源区における交通や歩行空間に関する課題の洗い出し（観光・生活などの複数の観点からフィールドワーク、リサーチ実施）
- ・文化資源区ならではの新しい生活体験・都市空間像の構想（住民参加のワークショップ、イベントの実施）
- ・生活空間を都市に広げ、豊かな人のつながりを生みだす、新しいパブリックスペースのモデル検証（交通システムとともに機能する新しいパブリックスペース）

具体的なロケーションでのケーススタディとPoCの実施

パブリックリレーションズ

- ・継続的な情報発信（イベント、WEBサイト、出版物などによる情報発信、および戦略PR等の諸活動）により、賛同者を集め、活動体を大きく育てていく

TTTチームの役割

- ✓ 「生活文化」と「テクノロジー」、「都市デザイン」と「交通政策」など、クロスカテゴリー・クロスセクターの議論/実験の場をファシリテートすること。
- ✓ 文化資源区に関わる生活者や地元企業、行政・官公庁、新しい技術インフラを提供可能な民間企業など、多様な各ステークホルダーのコミュニケーションハブ(or触媒)となり、TTT実現に向けた諸活動をアクセラレートすること。

○プロジェクト概要

秋葉原は「オタクの街」として国内外に知られています。しかし、既に定着したこのイメージに引きずられることは、街としての次の変化を迎えることを難しくしてしまいます。そこで東京文化資源会議では「広域秋葉原作戦会議」というプロジェクトを立ち上げ、街のさらなる進化を目指すための議論を行うことにしました。本プロジェクトでは、秋葉原を単体の街として考えるのではなく、秋葉原を中心に周囲の街も含めた広域エリア「Greater Akiba（グレートアキバ）／広域秋葉原」として捉え、エリア全体の江戸時代から今日にかけての歴史を踏まえながら将来像を検討していきます。

座長：庄司昌彦（武蔵大学社会学部教授）

プロジェクトマネージャー：井上奈智（国立国会図書館）

プロジェクトマネージャー：菊地映輝（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院研究員）



○プロジェクトの具体的目標

1 変化を連鎖させる知識と情報の交差点としての Greater Akiba の再認識

- ・ Greater Akiba 内の歴史的文化資源の MAP 化
- ・ Greater Akiba の歴史的变化と今日の文化に関するシンポジウムの開催

2 オタク文化と文化資源との関係性把握

- ・ Greater Akiba 内でのオタク文化に関連する文化資源の整理と MAP 化
- ・ オタク文化資源関係者を集めたワークショップ開催によるネットワーク作り

3 秋葉原のライブエンタメ文化資源の可能性探求

- ・ 秋葉原の街中にライブエンタメ情報センターを整備
- ・ 秋葉原電気街口駅前広場と歩行者天国の活用
- ・ 「アイドル頂上決戦」や「e-Sports オリンピック」などライブエンタメイベントの Greater Akiba 内での開催

4 Greater Akiba のエリア特性復活

- ・ Greater Akiba 内の徒歩での回遊を促す街歩き MAP の作成
- ・ 秋葉原と Greater Akiba 内の各街との連絡・連携強化
- ・ Greater Akiba の「知識と情報の交差点」としてのブランド作り

○活動状況

・定例会議の開催

秋葉原に関係するステークホルダーや有識者を招き、月に1回のペースで、秋葉原を多角的に検討し、今後の活動内容を協議する会議を開催しています。2018年度末までに計17回の会議を行ってきました。



・シンポジウムの開催

2018年9月6日(木)にシンポジウム「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」を秋葉原UDXギャラリーにて開催しました。これまでプロジェクトで議論してきた「グレーターアキバ」という概念について報告し、エリアの将来像について議論を行いました。当日は100名以上の人が来場し、SNSでもシンポジウム内容に関する議論が巻き起こりました。



・アイデアソンの実施

より多様なステークホルダーを巻き込み、新たなアイデアを創出するためにアイデアソンを2018年度から2019年度にかけて計3回に渡って開催しました。アイデアソンは、様々な分野の人々が集まり、グループディスカッション等を通じて新たなアイデアを生み出すイベントです。Vol.1は「ライブエンターテイメント特区を考える」、Vol.2は「アキバ拡張作戦」、Vol.3は「千代田区都市計画マスタープランをハックする」(執筆時点では仮題)というタイトルで開催しました。各アイデアソンで生まれたアイデアは、東京文化資源会議のウェブサイトで公開しています。



・神田明神資料館特別展示「起源探訪のインターレスト～シュタインズ・ゲートと秋葉原の歴史展～」への協力

2018年8月に開催された神田明神資料館特別展示「起源探訪のインターレスト～シュタインズ・ゲートと秋葉原の歴史展～」の展示作成にプロジェクトとして協力しました。また8月12日に行われたトークイベントにもプロジェクトメンバーが複数名登壇しました。



○今後の活動予定

・同人誌の作成(2019年8月発行予定)

これまでのプロジェクトの活動成果や議論をまとめた同人誌を作成します。作成した同人誌は、コミックマーケットなどの同人即売会への出展や秋葉原の同人ショップでの販売を予定しています。

・eスポーツに関する取り組みへの注力

Greater Akibaの持つライブエンタメ文化資源の1つとしてeスポーツに注目し、eスポーツに関連する取り組みに注力します。既に2019年5月5日にはミニラウンドテーブル「広域秋葉原とeスポーツの持つ可能性」をプロジェクトとして開催しており、そこで生まれた議論や繋がりを発展させていきたいと考えています。

・行政への提案

これまでのプロジェクトの活動成果や議論をもとに行政への提案を行っていきます。たとえば現在改定が進められている「千代田区都市計画マスタープラン」の独自対案を作成し提出することなどを予定しています。

○上野ナイトパーク構想会議とは

上野公園及び周辺地域は東京・日本観光の玄関口・花ともいべき場所であり、2020年オリンピック開催を見据え、国内外の観光客誘致や生活スタイルの新しい姿を追求する観点から、その豊富な文化資源の活用、とくに夜間における活用の方策をエリア全体として考えることが求められています。文化資源活用策の検討を本格化している東京文化資源会議では、夜間における上野公園文化資源の全面的な活用策について、関係各方面へ提案を行うため、上野ナイトパーク構想会議を昨年10月に発足させました。



○活動状況

上野ナイトパーク構想会議（全3回）を開催しました。
日時は、下記の通りです。

第1回 東京文化資源会議主催 上野ナイトパーク構想会議

日時：2018年10月3日（水）10:00-12:00

場所：ホテルパークサイド 松の間

第2回 東京文化資源会議主催 上野ナイトパーク構想会議

日時：2018年11月6日（火）12:30-14:30

場所：御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター ルーム A

第3回 東京文化資源会議主催 上野ナイトパーク構想会議

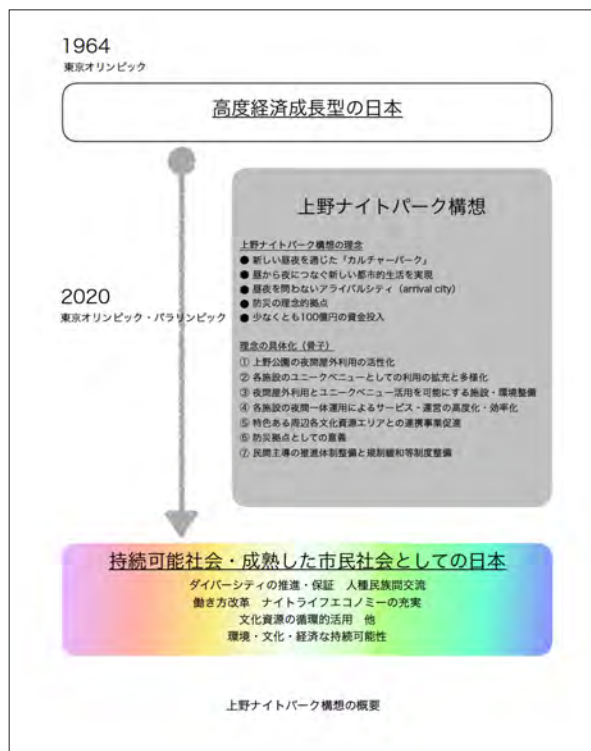
日時：2018年12月3日（月）11:00-13:00

場所：ホテルパークサイド 松の間



○委員一覧（敬称略・50音順）

- 青柳 正規（東京大学名誉教授・山梨県立美術館長）：座長
- 岡室 美奈子（早稲田大学教授・演劇博物館館長）
- 隈 研吾（東京大学教授・建築家）
- 小泉 秀樹（東京大学教授）
- 小林 正美（明治大学副学長・教授）
- デービッド・アトキンソン（株小西美術工藝社代表取締役社長）
- 廣瀬 通孝（東京大学教授）
- 増田 寛也（株野村総合研究所顧問）
- 南 学（東洋大学客員教授）
- 村井 良子（プランニング・ラボ代表取締役）
- 吉見 俊哉（東京大学教授）



東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

2016 年 5 月 9 日確定

(名称)

第 1 条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第 3 条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる 4 者（以下単に「4 者」という。）をもって構成する。

- (1) 千代田区
- (2) 文京区
- (3) 台東区
- (4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第 4 条 本協議会の運営方針は、4 者の協議によって決定する。

(事務所)

第 5 条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目 1 番地に置く。

(会議)

第 6 条 本協議会の会議は、4 者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4 者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第 7 条 4 者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4 者で別途協議する。

(規約の改定)

第 8 条 本協議規約の改定は、4 者の合意をもって行う。

(事務局)

第 9 条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

活動中のプロジェクトチーム等 一覧

2019年6月13日現在

*PM：プロジェクトマネージャーの略称

<プロジェクトチーム>

1. 3区文化資源地図ファブ（小泉秀樹座長、真鍋陸太郎副座長、鈴木親彦 PM）
2. 地域文化資源デジタルアーカイブ（柳与志夫座長、宮本隆史 PM）
3. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）
4. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
5. スポーツ文化資源（鈴木直文座長、角谷幹夫 PM）
6. 上野スクエア構想（中島直人座長、小野道生・永野真義 PM）
7. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、椎原晶子・山本玲子 PM）
8. ナショナルハウス構想（太下義之座長、道明葵一郎 PM）
9. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）
10. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、菊地映輝・井上奈智 PM）
11. うえのやねせん研究所（片桐由希子座長、PMは未定）

<委員会等>

- 全国文化資源連携ビジョン策定委員会（伊藤滋委員長）
- 上野ナイトパーク構想会議（青柳正規座長）・上野ナイトパーク構想企画検討会
- 国際連携チーム（モンテベルデ座長）
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 広報委員会（柳与志夫委員長、野口雅乃副委員長）
- 出版委員会（沢部均委員長）
- 総合戦略チーム（吉見俊哉座長）

<個別の取組>

- 旧岩崎邸整備
- MANGA ナショナルセンター設置

<3区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

<関連協力団体>

- 神保町未来会議
- NPO 歴史的建造物とまちづくりの会
- 非営利芸術活動団体コマンドN

2018年度 東京文化資源会議 収支報告

東京文化資源会議収支報告（2019年3月末時点）

収入の部

費目	内訳	予算	収入	差額
前年度繰越金		4,760,674	4,760,674	0
会費	賛助会員会費	11,700,000	11,550,000	-150,000
	本会員会費	300,000	186,000	-114,000
利子		0	64	64
その他（参加費収入等）		0	372,216	372,216
総計		16,760,674	16,868,954	108,280

支出の部

費目	内訳	予算	支出	差額
事務局運営費	事務所賃料（光熱水道費を含む）	712,800	655,344	57,456
	備品等購入費	50,000	1,980	48,020
	スタッフ手当（事務局長、スタッフ、臨時アルバイト）	3,000,000	3,735,442	▲735,442
	事務作業委託費	350,000	9,720	340,280
	交通費、電話料金、消耗品等運営経費	500,000	420,597	79,403
	総会開催経費	200,000	32,174	167,826
	小計		4,812,800	4,855,257
全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費	運営委託費（委員等謝金、交通費、事務費、報告書作成費等）	1,500,000	500,432	999,568
イベント開催経費	講師謝金、運営経費、会場費等	2,000,000	1,704,207	295,793
プロジェクトチーム等運営費	プロジェクトチーム運営経費	4,000,000	2,538,204	1,461,796
	3区文化資源地図協議会負担金	500,000	500,123	▲123
	小計	4,500,000	3,038,327	1,461,673
連携事業支援金		500,000	200,864	299,136
広報普及費	既存出版物増刷費	300,000	114,083	185,917
	パンフレット・チラシ等編集・作成費	500,000	409,011	90,989
	ニューズレター制作費	500,000	626,066	▲126,066
	ホームページ改修・運用費	500,000	151,673	348,327
	SNS関連広報費（事務委託）	540,000	540,432	▲432
	広報委員会運営経費	100,000	0	100,000
	活動報告会実施経費 （ガイドブック制作費）	500,000	1,398,475	▲898,475
	（ガイドブック制作費）	0	1,000,432	▲1,000,432
小計		2,940,000	4,240,172	▲1,300,172
その他諸経費（会計監査謝金等）		100,000	168,726	▲68,726
予備費		407,874	0	407,874
総計		16,760,674	14,707,985	2,052,689

収支差額

2018年度繰越金額			2,160,969	
------------	--	--	------------------	--

東京文化資源会議収支報告特別会計（2019年3月末時点）

収入の部

費目	内訳	予算	収入	差額
協賛金	17社×50万円	9,500,000	8,500,000	▲1,000,000
補助金	東京文化資源会議	0	1,000,000	1,000,000
利子		0	9	9
総計		9,500,000	9,500,009	9

支出の部

費目	内訳	予算	支出	差額
制作費		9,500,000	9,483,888	16,112
総計		9,500,000	9,483,888	16,112

収支差額

2018年度収支			16,121	
----------	--	--	---------------	--

2018年度 東京文化資源会議 会計監査報告


東京文化資源会議 2018年度会計監査報告

2018年度（2018年4月～2019年3月）の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2019年5月13日

東京文化資源会議

監事

北岡クマ子 

東京文化資源会議 2019 年度事業計画（案）

1. 東京文化資源会議中期ビジョンの策定（全国文化資源連携ビジョン策定委員会）

2. 第3期（2020年～）に向けた体制の整備

株式会社または一般社団法人等の設立など、現在の任意団体に加えて、構想の実施体制の整備を図る。

3. 上野関連プロジェクトへの集中的取組

以下のプロジェクトを統合して運用・発展させる上野グランド計画を関係者に提示し、その実現に向けて協議を行う。全体的な企画調整は総合戦略チームで行う。

① 上野ナイトパーク構想（構想会議座長：青柳正規多摩美術大学理事長）

各関係者と連携しながら、2019年2月に発表した構想の具体化を短期及び中長期に分けて行う。その推進のため、法人を設立する。

② 上野スクエア構想 P（座長：中島直人東京大学准教授）

地元関係者との勉強会を継続するとともに、仲町通りを対象に社会実験としての空きスペース活用イベントを実施する。

③ トーキョートラムタウン構想 P（座長：中島伸東京都市大学講師）

これまでの検討内容をまとめ、かつ将来構想を社会的に提示するための出版物を発行する。あわせて、その裏付けとなる調査を実施する。構想具体化のための関係者との協議を進める。

4. 各プロジェクト（P）等の運営と関連イベントの開催

① 3区文化資源地図ファブ P（座長：小泉秀樹東京大学教授）

帝都物語地図カタログを完成・出版する。地図アーカイブの継続・発展を図るとともに、「UPTOKYO ぶらり」を実装する。

② 地域文化資源デジタルアーカイブ P（座長：柳与志夫東京大学特任教授）

千代田区と連携して住民の記憶をデジタル化・編集する「DA ラボ」を実施し、自治体における地域文化資源デジタルアーカイブ化とその運営体制整備のモデルを提示する。

③ 上野湯島神田社寺会堂研究会（座長：吉見俊哉東京大学教授）

社寺会堂塾を継続するとともに、その成果を出版物にまとめるための検討を始める。ハード面整備のための中長期ビジョンを策定する。参加6施設を核とする共同イベントを2020年10月を目途に実施するための企画を確定し、その実施体制を整える。それに合わせて、ソフト面・ハード面の両面で散策路の開発を行う。

④ 本郷のキオクの未来 P（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）

本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを改めて確認する。対象を選んで、保全・活用のためのまちづくりファンドの適用を検討する。

⑤ スポーツ文化資源 P（座長：鈴木直文一橋大学教授）

これまで行ってきた各イベントをレビューするとともに、スポーツの文化資源化を図るため、スポーツを「遊べる」場をこの地域内で増やしていく。

⑥ リノベーションまちづくり制度研究会（座長：田村誠邦明治大学特任教授）

国交省・都庁・三区に対して東京文化資源区の「歴史文化資源特区制度」創設を継続的に働きかけるとともに、街区単位のリノベーションまちづくりの事例開発を具体化する（神保町及び根津地域を想定）。地域の面的歴史ま

ちづくり制度を提案するため、谷中地区を事例として調査・検討を行う。

⑦ ナショナルハウス構想 P（座長：太下義之国立美術館理事）

東京文化資源区内の中小規模のユニークベニューを対象として、その保全・活用を図るためのツーリズム開発などの事業モデルを検討する。

⑧ 広域秋葉原作戦会議 P（座長：庄司昌彦武蔵大学教授）

「広域秋葉原」概念の確立・普及を図るとともに、その歴史性と現況を踏まえた新しい秋葉原の文化資源開発を具体化する。これまでの検討・イベントを通じて得た知見に基づく中期的な戦略目標を策定する。

⑨ 神田まちづくり懇談会（座長：小林正美明治大学副学長・教授）

新しい神田ブランドづくりに役立つ「神田かいいい指標」を作成し、関係者へ提示・協議したうえで、実際の適用に向けて千代田区を含めた関係者への働きかけを行う。

⑩ うえのやねせん研究所 P（座長：片桐由希子首都大学東京助教）

地域の文化資源を活用して地域の課題解決を考える場として、行政・企業から独立した地域研究機関の在り方を検討する。そのモデルとして、谷根千、根岸、下谷等を対象とする「うえのやねせん研究所（仮称）」の設立・運営をめざす。

5. 広報普及活動

- (1) 『T-Cha』の発行（年4回）
- (2) ソラシティ広報イベントの開催（5月）
- (3) 上野活動報告会の開催（6月）
- (4) 『ミセス』2019年4月号「特集：東京文化資源区をそぞろ歩き」の発行

6. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

7. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

東京文化資源会議 2019 年度収支計画（案）

○収入

前年度繰越金 216万969円

本会員会費 $3,000円 \times 70$ （団体・個人）= 21万円

賛助会員会費 $(50万円 \times 12$ 団体) + $(30万円 \times 18$ 団体) = 1,140万円

計、1,377万969円

○支出

事務局運営費 566万円

事務所賃料（光熱水道費を含む） $(3万円 \times 12$ か月) + 15万円 = 51万円

備品等購入費 5万円

スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）380万円

事務作業委託費 10万円

交通費、電話料金、消耗品費等運営経費 50万円

総会開催経費 20万円

事務所移転経費 50万円

全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費 100万円

運営委託費（委員等謝金、交通費、事務費等）全2回開催

イベント開催経費（シンポジウム等10回程度を想定） 180万円

講師謝金、運営経費、会場費等 180万円

プロジェクトチーム等運営費 230万円

プロジェクトチーム運営経費 $30万円 \times 5$ チーム + $20万円 \times 4$ グループ = 230万円

連携事業支援金 20万円

$10万円 \times 2$ 団体 = 20万円

広報普及費 260万円

既存出版物増刷費 20万円

パンフレット・チラシ等編集・作成費 40万円

ニューズレター制作費 65万円

ホームページ改修・運用費 20万円

SNS 関連広報費（事務委託） 55万円

広報委員会運営経費 10万円

活動報告会実施経費 50万円

その他諸経費（会計監査謝金等） 10万円

予備費 11万969円

計、1,377万969円

全国文化資源連携ビジョン策定委員会 委員名簿

2019年4月現在 / 50音順

- ・ 青山 侑 (明治大学名誉教授)
- ・ 伊藤 滋 (東京大学名誉教授) <委員長>
- ・ 久保田 尚 (埼玉大学理工学研究科教授)
- ・ 隈 研吾 (東京大学大学院工学系研究科教授)
- ・ 小泉 秀樹 (東京大学大学院工学系研究科教授)
- ・ 小林 正美 (明治大学理工学部教授・副学長)
- ・ 後藤 治 (工学院大学理事長)
- ・ 佐藤 友美子 (追手門学院大学地域創造学部教授)
- ・ 進士 五十八 (福井県立大学学長)
- ・ 陣内 秀信 (法政大学特任教授)
- ・ 高野 明彦 (国立情報学研究所教授)
- ・ 中村 政人 (東京藝術大学美術学部教授・アーツ千代田 3331 ディレクター)
- ・ 西村 幸夫 (神戸芸術工科大学大学院教授)
- ・ 廣瀬 通孝 (東京大学大学院情報理工学系研究科教授)
- ・ 村上 裕道 (文化庁地域文化創生本部研究官)
- ・ 森 まゆみ (作家、谷根千工房代表)
- ・ 森川 嘉一郎 (明治大学国際日本学部准教授)
- ・ 門内 輝行 (大阪芸術大学建築学科長・教授、京都大学名誉教授)
- ・ 八木 壯一 (株)八木書店会長)
- ・ 吉見 俊哉 (東京大学大学院情報学環教授)

計、20名

東京文化資源会議 役員名簿

2019年6月7日現在

会長	伊藤滋（東京大学名誉教授）	
幹事長	吉見俊哉（東京大学教授）	
顧問	青木保（国立新美術館館長）	高階秀爾（大原美術館館長）
	青柳正規（多摩美術大学理事長）	竹内誠（江戸東京博物館名誉館長）
	相賀昌宏（小学館社長）	長尾真（京都大学名誉教授）
	小倉純二（日本サッカー協会最高顧問）	御厨貴（東京大学名誉教授）
	金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）	
幹事	太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株）	
	宇野求（東京理科大学）	
	片桐由希子（首都大学東京）	
	栗原祐司（京都国立博物館）	
	栗生はるか（文京建築会ユース）	
	小泉秀樹（東京大学）	
	小林正美（明治大学）：副幹事長	
	沢辺均（ポット出版）	
	椎原晶子（NPO たいとう歴史都市研究会）	
	島裕（株日本経済研究所）	
	庄司昌彦（武蔵大学）	
	鈴木直文（一橋大学）	
	数藤雅彦（弁護士）	
	関口太一（株都市計画設計研究所）	
	高野明彦（国立情報学研究所）	
	玉置康紀（株KADOKAWA）	
	田村誠邦（株アークブレイン・明治大学）	
	中島伸（東京都市大学）	
	中島直人（東京大学）	
	中村政人（東京藝術大学）	
	中村雄祐（東京大学）	
	野口雅乃（株イード）	
	濱口博行（東アジアサッカー連盟・広島経済大学）	
	福島幸宏（東京大学）	
	三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会）	
	山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟）	
吉本光宏（株ニッセイ基礎研究所）		
監事	北岡タマ子（お茶の水女子大学）	
事務局長	柳与志夫（東京大学）	

東京文化資源会議 賛助会員（一般・特別）リスト

2019年6月5日現在

< 一般賛助会員 >

1. AGC
2. 朝日信用金庫
3. NTT 都市開発
4. 講談社
5. JTB
6. 集英社
7. ゼンリン
8. 第一勧業信用組合
9. 丹青社
10. 凸版印刷
11. 日建設計
12. 乃村工藝社
13. 日立製作所
14. 松下産業
15. ムラヤマ
16. ヤマハミュージックジャパン
17. YKK AP

< 特別賛助会員 >

1. 住友商事
2. 大成建設
3. 大丸松坂屋百貨店
4. 竹中工務店
5. 電通
6. 東京ドーム
7. 日鉄興和不動産
8. 野村不動産
9. 博報堂
10. 三井不動産
11. 三菱地所
12. 安田不動産

< 名誉賛助会員 >

株式会社 池之端藤井

東京文化資源会議 2019 年度総会資料

発行日 2019年7月11日
発行者 東京文化資源会議 (編集: j.hirose)
〒110-0005 台東区上野 2-11-1 藤井ビル 3階
TEL: 03-5244-5450 WEB: <https://tcha.jp/>

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance

